

早稲田大学 文化構想学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	一つのテーマにそった出題は今年も継承された。本年のテーマは「思想・宗教」。9年は「戦争」、8年は「都市」、7年は「人の移動」であった。難易度は昨年と比べかなり軟化。問題数も昨年の47問から大幅に減少して38問となった。年代に関しては昨年同様に細かい出題があった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅰ〕	先史・古代オリエント	設問2の選択肢の中のひとつ「フォン＝デ＝ゴーム」はラスコー近く、つまり南仏にある洞窟遺跡だが用語集・参考書レベルではみかけない名である。しかし、正解はスペインの遺跡ということでアルタミラを一本釣りできる。	易
〔Ⅱ〕	西欧中世のキリスト教	設問2のウはウルバヌス2世ではなくカリクスツ2世が正しい。ただそこまで踏み込まなくともウルバヌス2世＝クレルモン公会議という公式で対処可能。設問3のイは二院制ではなく三部会が正しい。	易
〔Ⅲ〕	イスラーム関係史	設問3のマムルークは本来トルコ人軍人奴隷をさしたが、スラヴ人やギリシア人など白人の奴隷兵を言う場合もあった。黒人奴隷はザンジュ(東アフリカのザンジバルから輸出されたのでこの名がついた)と呼ばれ農園労働に従事させられた。	易
〔Ⅳ〕	東南アジア・トルキスタン・チベットの宗教	設問3のウはホラズムが誤り。トルコ人のイスラーム化が進んだのはカラ＝ハン朝(10c中頃～12c中頃)時代が正しい。設問4のエのツォンカパによる黄帽派開宗は16世紀ではなく14世紀の出来事。設問5の第1次国共合作は1924年の出来事。本文にいう内陸アジアの社会主義国とはソ連と中国のこと。外蒙(現モンゴル国)ではソ連時代に、内蒙(中国領)では戦後に激しい宗教弾圧が繰り返された。この問題の視点は昨年の第VI問のクルド人問題と共通するところがある。	標準
〔Ⅴ〕	北京の宗教建築	設問5の①に対応する写真dは北京北海公園にある白塔で順治帝によって建立された。このような仏塔をチベットではチョルテン、ビルマではパゴダと呼ぶ。に対応する写真bはサルバドル堂で北京に4箇所ある教会のうち北にあるところから北京北堂と称される。設問4の回族の呼称は回教から連想する。中国国内でのイスラーム教徒の問題も第 題と共通するテーマである。設問1の選択肢にあるアルタン＝ハンは昨年も出題されていた。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
〔VI〕	北極を中心として俯瞰した世界(地図問題)	設問1のアはロジャー＝ベーコンではなくフランシス＝ベーコンが正しい。設問2のケネーは仏、リストは独の人。リカードは英人だが国家の保護政策は説いていない。設問6に該当する地域はサヴォイアとニースで、サヴォイアは内陸部でニースは沿岸部にある。地図で海岸に達していないことを確認する必要があるが、地図が貧弱で見づらいので慎重を期したい。	標準
〔VII〕	第2次大戦後の宗教対立	設問2はカトリックの国としてクロアチアを選ぶ。アルバニアはイスラーム教、セルビアとモンテネグロは東方正教が多数派を占める。かつてユーゴスラヴィアを構成した共和国のうち、長くオーストリア領だった北方のスロヴェニアとクロアチアにはカトリックが多い。	標準
〔VIII〕	ガンダーラ美術と大乘仏教	設問1の彫刻の説明は一見難しそうに思えるが、ガンダーラ→クシャーナ朝時代→大乘仏教→菩薩信仰と連想できれば選択肢は一つしかない。設問2はクシャーナ朝が1～3世紀の王朝であるから184年におきた黄巾の乱を選ぶ。	標準

〔総合コメント〕

昨年は一昨年比べて難化したのが、今年は一転して易化した。問題数も減少し、時間的にはかなりゆとりのある対応が可能となった。例年、古代から現代まで満遍なく出題されていたが、今年では現代史がやや少なかった。地図問題も昨年のバルト海・北海沿岸に引き続き、北極からの俯瞰図というあまり見慣れない形で出題された。今年での地図は北半球の大半を覆うような図幅であるのに、出題はイタリアの一地方というアンバランスなもので見やすいとはいいいかねる。要はイタリア半島を逆さにしてみたかったのだろうが意欲倒れといわざるを得ない。ただ、普段見慣れた地図に手を加え、わざと扱いにくくして出題する傾向は続くかもしれないので要注意である。そして、昨年に引き続き時事問題的視点が目立つ。中国の新疆でイスラーム教徒のウイグル人と漢族が衝突したのは昨年の大問題であった。一昨年の北京オリンピックから続くチベットの問題も解決の糸口さえ見えていない。そしてチベットとウイグルのかげに隠れて忘れられがちなのがモンゴル人の置かれた複雑かつ悲惨な状態である。こうした現代中国をめぐる宗教と民族をテーマにかなり切り込んだ設定をしたのが今年の特徴である。しかし、テーマ設定の如何にかかわらず、設問の内容の大半は教科書レベルである。難問・奇問はまずないので、幅広く、基礎的事項を徹底的にマークしておけばかなりの高得点が期待できる。時事的事項は現代の紛争地域を中心に出题される傾向が続いているが、現代の紛争は教科書では心もとないので、普段から新聞などを通じてこまめに世界情勢をチェックしておきたい。